

## 上の原の歴史

所在地：群馬県水上町藤原 / 面積：219町6反4畝9分

### <上の原年表>

1883年（明治6年）

官有地へ編入。入会地としての利用は昔どおり

1921年（大正10年）

水上村（当時）に払い下げ。当時の金額で15,028円  
（「国有林野不用存置」という決めによる措置）

1927年（昭和2年）～1932年（昭和7年）

カラマツの植林始まる。6年間で78ヘクタール植林

1943年（昭和18年）ごろ

義勇軍によるジャガイモ、カライモ（キクイモ）栽培など

1945年（昭和20年）以降の食糧難時代

カヤバの一部をカンノ（焼き畑）に

1947年（昭和22年）ごろ

学校林としてカラマツ植林。火防線（防火帯）作られる

1950年（昭和25年）ごろ～1965年（昭和40年）

外部の入山者に対して山菜採取の「入山証・青物採取券」（30円～100円）を発行

1959年（昭和34年）

カラマツ植林、台風15号で大被害

被害木約1,500石（420m<sup>3</sup>）を206万500円で売却

1960年（昭和35年）ごろ

藤原地区最後の屋根替えがおこなわれる（カヤの伝統的入会利用が消滅する）

1965年（昭和40年）ごろ

最後の野焼き

1965年（昭和40年）

コクドへ売却。21ヘクタールが残る

1980年（昭和55年）ごろ

シラカバなどの侵入が始まる（コモンズ「森林化調査」より）

1980年（昭和55年）代

水上高原ゴルフ場オープン

1990年（平成2年）代？

前田工業による部分的なカヤ刈り始まる

1996年（平成8年）

失火。入山者のバーベキューの火が原因

2003年（平成15年）

上の原の町有地21ヘクタール、水上町と森林塾青水が賃貸契約。

2004年（平成16年）

40年ぶりの野焼き。「講座・森林コモンズ村・ふじわら」開催

< 上の原の植物資源利用 >

資源		用途	規制 / 採取時期 / その他
カヤ	ススキ	屋根替え	口明け / 10月末 (8月の組長寄合で決定) 地区総出で刈った。火入れは4月、雪の間を焼いた。
カヤ	ススキ	炭俵、養蚕のカヤバブシ、家屋の冬垣	屋根葺き用の後 / 10月末 ~ 11月
カッチキ (刈敷)	青草	水田の刈り敷き (春の田植え前の水田に敷き入れる)	規制なし
カッポシ (干草)	青草	馬の飼料 馬屋に敷き込む 堆肥	規制なし / 夏 (梅雨が明けけるまでに)
ハギ	萩	保管。葉を馬の飼料に。 茎は串柿の棒、炭俵のふたなどに利用。	ハギの口明け / ハギの花が終わわり、実が入り過ぎない時期
クゾバ (クゾバ採り)	葛の葉	馬、ウサギ、ヤギの飼料。 蔓は2つに裂いて紐に。	口明け / 10月10日
カズラの根 (カズラ掘り)	葛の根	でんぷん採取。	規制なし / 秋 ~ 翌春
山菜類		ワラビ、ゼンマイ、フキ、ウドなど	規制なし / 春
ワラビの根	蕨	蕨粉 / 機織りや番傘の糊の原料として桐生などへ。 各家で調製、上澄みの黒い部分は焼き餅に。	規制なし / 秋 ~ 翌春 / 重要な現金収入源

< 遊歩道利用上の注意 >

コース周辺は民地です。山菜採取は禁止。山中への立ち入り禁止。  
山火事防止...特に乾燥期のたき火など火気使用厳禁、タバコ禁止。  
高山植物等の採取は厳禁  
動植物の生存環境を損ねるような行為は厳禁  
トイレは入山前に済ませるように。  
ゴミは持ち帰ること。

